

21世紀へ飛躍・発展の夢のせて飛びたつ，新高松空港

21世紀に向けて飛躍・発展する香川県の、ひいては四国の新しい空の玄関として完成が急がれていた新高松空港が、平成元年12月16日に開港した。

当日は穏やかな晴天のもと、運輸省主催の「新高松空港開港式典」が、森田運輸政務次官、平井香川県知事をはじめ、国および県などの関係者約570名の出席のもと盛大に挙行された。

香川県のほぼ中央の香南台地（高松市の南約14km）に位置する新高松空港は、昭和58年8月に設置告示され、60年10月から本格的建設工事がスタートし、地元の日も早い開港要望に応えるため、第三港湾建設局が総力を挙げて取組み、約1年工期を短縮し4年余で完成にこぎつけた。

本工事は高低差100mにも達する凹凸の激しい地形を156haに及ぶ広大な平坦地として急速に造成し、次いで滑走路・誘導路など空港基本施設の安定した舗装（最大舗装厚77cm）を行うものであり、最大盛土高55m、1760万 m^3 の切・盛土の施工管

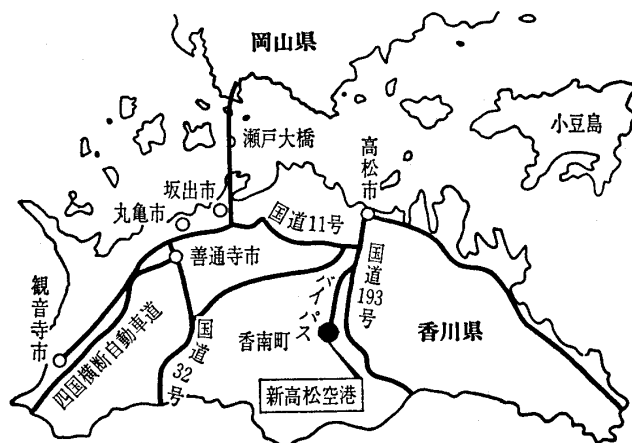


図-1 新高松空港位置図

理、排水処理などには最新の調査機器を活用するとともに、土質工学会四国支部の「新高松空港建設技術調査委員会（委員長：谷本喜一 神戸大学名誉教授）」の指導などを得ながら、無事故・無災害で開港を迎えることができた。

新高松空港は、2500m滑走路とジャンボ機など

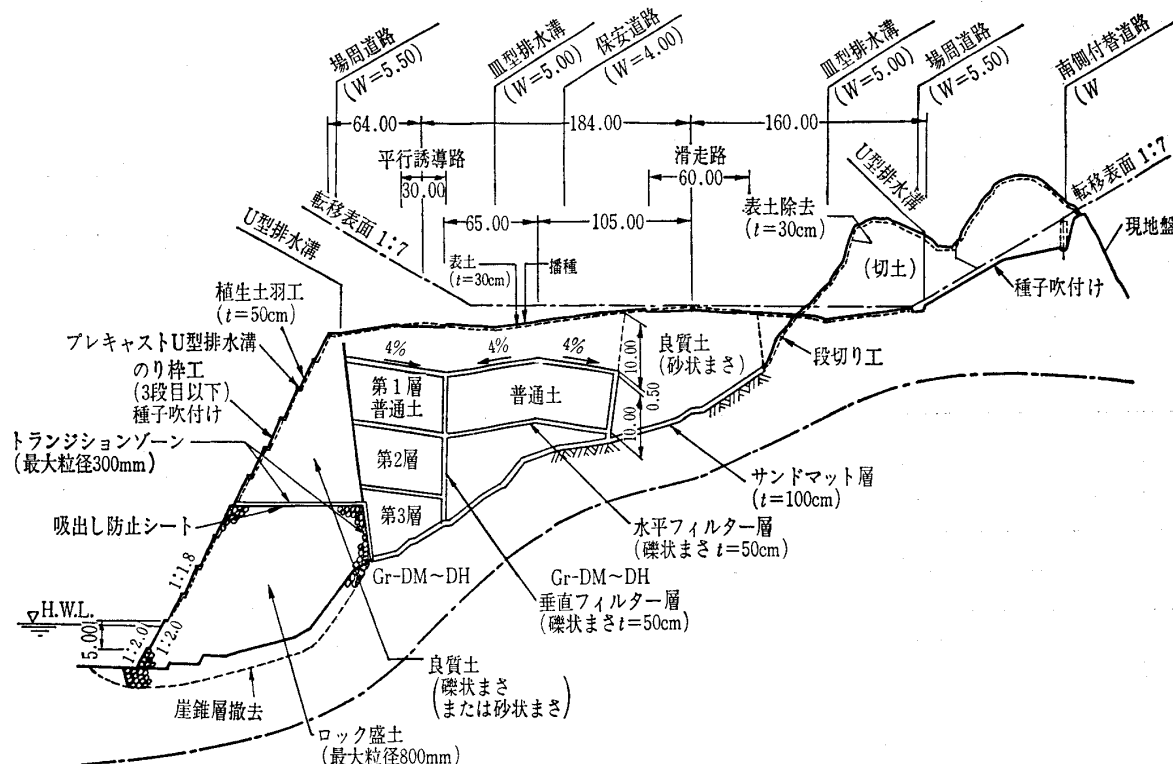


図-2 盛土部標準断面図

ニュース

が同時に5機駐機できるエプロン(駐機場)など、
中・四国随一の規模を有する基本施設のほか、延長
765m、最高地上高65mの橋梁式進入灯と1049個

の航空灯火、VOR/DME(超短波全方向式無線標識
施設/距離情報提供装置)、ILS(計器着陸装置)な
ど最新の航空保安施設を備えているほか、讃岐を象

表-1 新高松空港施設一覧表

項 目		項 目	
設 置 者	運輸大臣(第二種空港)	航空保安施設	VOR/DME(全方向、距離測定装置)
位 置	香川県香川郡香南町	計器着陸	ASR(空港監視レーダー)
標 点 の 位 置	北緯 34°12'39''	(ILSCAT-1)	ILS(計器着陸施設)
	東経 134°01'06''		VASIS(進入角指示灯)
標 高	184.9m		REIL(滑走路末端識別灯)
着 陸 帯 の 等 級	B級		進入灯、滑走路灯、誘導路灯、エプロン照明灯
舗装体の設計強度	LA-1		飛行場灯台、風向灯等
着 陸 帯	長さ2620m×幅300m	ターミナル施設	旅客ターミナル:延床面積10400m ² (RC造、地上2階、一部3階)
滑 走 路	長さ2500m×幅60m		貨物ターミナル:延床面積1900m ² (鉄骨造、平屋、一部2階)
	(真方位N72°53'44''E)		空港管理施設1式
誘 導 路	総延長2828m×幅30m		その他空港施設1式
エ プ ロ ン	面 積59850m ² パース数5		道路・駐車場:面積37090m ² (駐車台数:540台)
場 周 道 路	総延長6550m×幅5.5m		
保 安 道 路	総延長3252m×幅4.0m	土工量	約1760万m ³ (空港面積約156ha)

表-2 新高松空港整備工程表

区 分	内 容	昭 和						平成 元年度	備 考
		58年度	59年度	60年度	61年度	62年度	63年度		
用 地 造 成	切土・盛土 174ha								土工量 1760万m ³
	排水工 29860m								
	緑地工 1式								
舗 装 工 事	滑走路 2500m×60m								As
	オーバーラン 120m×80m								As
	誘導路 2828m×30m								As, Con
	エプロン 315m×190m								Con
	道路・駐車場 37090m ²								As
	場周・保安道路 9800m								As
補 償 工 事	ため池新設・嵩上 1式								新設3池、嵩上7池 C-BOX L=430m
	付替道路								
	吉光高根線 520m								
	空港南線 3410m								
	下倉2号線 150m								
	奥谷農道 1060m								
無線・照明・ 建 築 工 事	送電線移設 1式								ILS, VOR/DME 進入灯、滑走路・誘導路灯 電源局舎、消防車庫
	無線施設 1式								
	照明施設 1式								
気 象 施 設	庁舎(管制塔)等 1式								
航空燃料給油施設 300kl×2基									
ターミ ナルビ ル等建 築工事	旅客ターミナルビル 10400m ²								
	貨物ターミナルビル 1900m ²								
	警察航空隊隊舎格納庫 610m ²								
	四国航空格納庫、等 2900m ²								
事 業 費 (億円)		3	6.5	50	65	71	73.4	33.4	302.3億円

(注) 事業費には用地費、航空燃料給油施設・ターミナルビル等建築工事費を含まない。

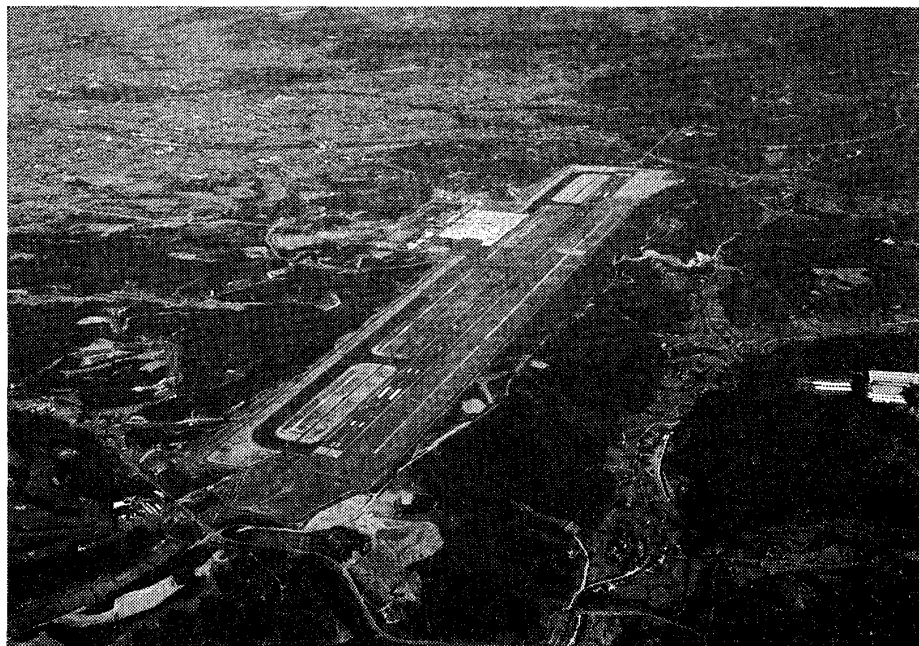


写真-1 新高松空港全景（平成元年11月26日撮影）



写真-2 新高松空港旅客ターミナルビル（平成元年10月撮影）

徴するユニークなデザインで国際空港化に対応したCIQ施設、OA機器を常備したビジネスラウンジも有する旅客ターミナルビルなどからなっている。

新高松空港の開港に伴い、東京路線はB-767、A-300のジェット機が導入され、利用者はYS-11時代に比べて約50分の時間短縮（旧空港はジェット機の就航していない唯一の第二種空港で、東京まで約2時間を要した）とダイヤ改正により、日帰り出張が可能となるなど期待どおりの効果を発揮しており、開港後1か月間の利用者は前年同期に比べ約2.7倍

（全路線合計では約1.8倍）にのぼっている。

また、ハワイ、シンガポール、ソウルなどへの国際チャーター便も8便運航され大盛況である。フライト農業・漁業も順調に販路を広げており、一昨年の瀬戸大橋の開通に続いて新高松空港の開港はまさに地域の社会・経済・産業などあらゆる面で新時代をもたらしつつある。

（文責：池上勝己 運輸省第三港湾建設局高松港工事事務所）

（原稿受理 1990.1.23）